

2015年7月、市内花川にある石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品が市指定文化財第8号に指定されました。指定されたのは縄文文化の木製品のうち18点で、紅葉山砂丘の麓を流れていた約4千年前の川と人々の関わりを示す大変貴重なものです。また、普通の遺跡では残りにくい木を素材に作られた道具が、朽ちることなく良好な状態で出土した点でも希少です。

指定された木製品について紹



① 魚たたき棒 (51.5cm)

② 石斧柄
(現存部41.3cm)

③ 松明 (35.8cm)

④ 舟形容器 (46.5cm)

⑤ 柄付容器 (27.8cm)

※ () は長さ

市指定文化財

石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品

介すると、柵・タモ・魚たたき棒①は河川漁に用いられたもので、主にサケの捕獲に使われていたと考えられます。櫂は川で丸木舟を動かすためのものです。今回は指定されていませんが丸木舟の破片も出土しており、これらを使って川を移動したことや物を運んだことが推測されます。尖り棒・石斧柄②(4点)・石斧固定具・横槌は、木材の加工や施設を設置するときに使われたものと考えられます。松明③は先

端を割り込んだ部分が黒く焦げており、その部分に樹皮などを挟んで火を灯したとみられます。容器類は、舟形容器④(3点)・漆塗り浅鉢・柄付容器⑤(2点)が選ばれました。舟形容器のうち1点は長さ100cmを超える大型品で、ほかの2点は長さ45cm前後の大きさです。柄付容器の2点は、一つの木材を削って器と柄を一緒に作り出しています。これらの木製品の多くは日本各地を見ても類例が少なく、製

作技術や用途についてはまだ解明されていない点も残されています。今後、ほかの遺跡から新たな類例が発見されることによって、さらに解明されていくことが期待されます。皆さんも数千年の眠りから目覚めた「先人の道具」を通して、石狩の歴史をひもといてみませんか？

(荒山千恵)



石狩市学芸員
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。北海道での遺跡発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。